

令和6年度第1回岡崎市地域公共交通会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和6年5月20日（火）14時00分～16時00分

2 開催場所

岡崎市役所西庁舎7階西701号室

3 出席者及び欠席者の氏名

(1) 出席者（19名）

松本	幸正	委員	（名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
松尾	幸二郎	委員	（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授）
豊田	智隆	委員	（東海旅客鉄道株式会社）
夫馬	康昌	委員	（名古屋鉄道(株)）
寺澤	秀樹	委員	（愛知環状鉄道(株)）
大野	淳	委員	（名鉄バス(株)）
浅岡	林平	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部）
徳田	裕二	委員	（(公社)愛知県バス協会）
猿渡	博士	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
長坂	秀志	委員	（岡崎市総代会連絡協議会）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会）
浅野	宗夫	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会）
松原	秀敏	委員	（六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）
鈴木	勝彦	委員	（額田地域生活交通協議会）
勝山	祐樹	委員	（国土交通省 中部運輸局）
宮川	高彰	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）
森本	恭平	委員	（愛知県都市・交通局交通対策課）
能登谷	敦	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課）
渡辺	大祐	委員	（愛知県警察 岡崎警察署）
岡田	晃典	委員	（岡崎市 総合政策部長）

(2) 欠席者（2名）

玉置	文博	委員	（名鉄東部交通(株)）欠席
多々内	丈雄	委員	（岡崎商工会議所）欠席

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

木下 政樹（地域創生課長） 竹内 雅晴（主任主査） 熊谷 大輝（主事）

安藤 星哉（主事） 澤田 和樹（主事） 安藤 寛人（事務員）

5 傍聴者、随行者等

3 名

6 議題

(1) 会長及び副会長の選出、監査委員の指名について

資料 1 に基づき説明

委員の互選により、会長に松本委員、副会長に松尾委員が選出された。

松本委員から監査委員に長坂委員、鷺山委員を指名した。

(2) 岡崎市地域公共交通会議の規定について

資料 2 に基づき事務局より説明

〈以下、各委員の意見等〉

委員： 資料 2-1 について別表 1 の形状が「岡崎市地域公共交通通会議会長印」となっているが、「岡崎市地域公共交通会議会長印」が正しいのではないか。

事務局： 記載誤りのため修正する。

(3) 令和 6 年度事業計画（案）及び予算（案）について

資料 3 に基づき事務局より説明

資料 7～9、追加資料は関連するため合わせて説明

〈以下、各委員の意見等〉

事務局： 愛環フォトコンテストでは写真を撮るだけでなく乗っていただくことを目的においた。その結果、参加者には乗ることの大切さを実感したという意見が多くあった。他の公共交通事業者においてもご協力をお願いしたい。

北斗台地区グリーンスローモビリティでは既存の公共交通を守るスタンスのもと事業を行っている。

委員： 北斗台地区グリーンスローモビリティでは北斗台団地内に入る 10 便のバスを守るという地域の方の思いは分かるが、幹線沿いにある 49 便のバスに寄ることができれば中心市街地への移動が増えるのではないかと思う。このような検討はあったのか。

事務局： 北斗台口の近くまではデマンド型の運行で移動が可能になっている。

委員： バスのダイヤとグリーンスローモビリティのダイヤ調整や定時定路線ルートに北斗台口をいれると利用促進につながるのではないかと思うので、今後検討していただきたい。

委員： タクシーからすると希望の時間に迎えに行くことができないため今後トラブルがおきる可能性もある。今後はタクシー事業者とも交えて検討をしていただきたい。

委員：（高齢者フリーパスの R5 実績について説明）

委員： 高齢者と孫をセットにして公共交通を利用してもらえるような事業を展開するとよいのではないかと思います。また、フォトコンテストだけでなく、市内の幼稚園や小学校と連携をして子供たちが描いた絵を車内に掲示すれば、それを見るために子供や親が公共交通を利用するきっかけになるのではないかと思います。

事務局： 子供と親や祖父母を結びつけるような事業は公共交通を利用してもらえるきっかけになると思うため事業者には是非協力をお願いしたい。

委員： 公共交通マップについて、今年度よりマイ時刻表が記入できるようになったがバス停の時刻表はどのように調べるのか。

事務局： 直接バス停に行ってメモをするか時刻表等検索アプリを利用していただくことを想定している。

委員：（CentX について説明）

(4) 地域公共交通計画（旧 生活交通確保維持改善計画）（案）について

愛知運輸支局より地域公共交通計画の概要について説明

資料 4 に基づき説明

＜以下、各委員の意見等＞

委員： 実際に提出する前に支局との打ち合わせの中で多少の修正があることを御理解いただきたい。

事務局：（岡崎安城線のルート変更について資料 10 に基づき説明）

(5) 岡崎市地域公共交通計画の評価結果について

資料 5 に基づき事務局より説明

＜以下、各委員の意見等＞

委員： サイクルシェアの利用について交通事業者としては人身事故の可能性が高いと考える。貸し出しの際には交通ルールの確認を徹底していただきたい。

事務局： 利用者への交通ルールの徹底を行っていききたい。それに向けた、事業者との連携や啓発活動の実施などをしていききたい。

事務局： 現在は努力義務であるヘルメット着用について、将来は、マイヘルメットを持つように啓発を行っていききたい。

委員： 公共交通の公的資金の投入額についてどのようなところが対象となってくるのか教えていただきたい。

事務局： 赤字路線及びデマンド交通が該当してくる。

委員： 先程の質問に追加して、評価・次年度に向けた課題や取り組みのところでパークア

ンドライドの推進をされているが、地域の潜在需要の促進を挙げた方が直感的にわかりやすいのではないか。

事務局： イベント時のパークアンドライドを行っている。地域の潜在需要の促進を加えるか検討したい。

委員： アウトレット開業に向けた内容なども加えていくことを検討してみるのはいかがでしょうか。

事務局： 具体的な計画はないが今後追加していくことも検討していきたい。

委員： パークアンドライドを即効的に利用増にすることはやっていないと思うが、中長期的な推進として挙げるのであれば記載したままでよいと思う。また、資料 5-2 額田地域コミュニティバスに記載されている「地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。」を同じように記載すればいいと思う。

アウトレットの件については、検討を進めていく記載をしてもいいのではないか。

事務局： パークアンドライドに関しては現在もパークアンドトレインの取組を行っているため記載しておく。「地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。」の記載は、公的資金が投入されている公共交通事業の収支率及び公共交通への公的資金の投入額にも言えることなので記載をする。アウトレットに関しては部局が違うため、調整をして記載ができるようであれば記載をする。

委員： 資料 5-2 新たな社会に対応したスマートな交通について確認事項として岡崎市内線を対象としているがその理由はなぜか。また、周知を実施とあるが具体的にはどのようなものか。IC カードの利用率については 55%とはどのようなものか。

事務局： 前提としては公共交通全体をコロナ前までの利用者数へ回復することがあるがその中でもコロナ前と比較して利用者数の減少が大きい岡崎市内線を対象とした。具体的な周知としては CentX のような公共交通利用者が利用しやすい環境についての周知をしている。運賃支払方法の内訳は IC カード利用者が 55%、定期利用率が 36%、現金利用率が 9%となっている。

委員： 公共交通利用者が利用しやすい環境の周知を踏まえると、資料 5-2 新たな社会に対応したスマートな交通のコロナ禍における公共交通への不安の評価・次年度に向けた課題や取組は「コロナ禍前に比べ利用者数が減少しているものの、新型コロナ収束により回復傾向にあり、引き続き公共交通の利便性周知を実施。」に変更したほうがよい。

事務局： そのように変更する。

(6) 六ツ美中部学区地域内交通「チョイソコおかざき」運行計画変更（案）について

資料 6 に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 運賃の変更のため運賃協議会の協議が必要であったか。また、それに伴いパブリックコメントや公聴会も必要であるがどのようにしたのか。

事務局： 運賃変更のため運賃協議会の協議が必要であった。今回はエリアが狭かったため、エリアバスの運営協議会で協議をし、それをパブリックコメントや公聴会の代わりとした。

(7) その他

愛知県バス会社合同説明会について説明

東海道新幹線 60 周年記念事業について説明

CentX について説明

7 連絡事項

次回会議（令和 6 年度第 2 回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —